

ぬり薬の使い方

軟膏とクリーム剤、ローション剤の違い



● 軟膏 薬の主成分+油脂性のワセリンなど

皮膚の保護作用があり、傷やジュクジュクにも使用できます。油分ですので、水で落ちにくく、ベタつきやすい。

● クリーム 薬の主成分+(水+油)

乳化と言う状態にすることで混ざり合う



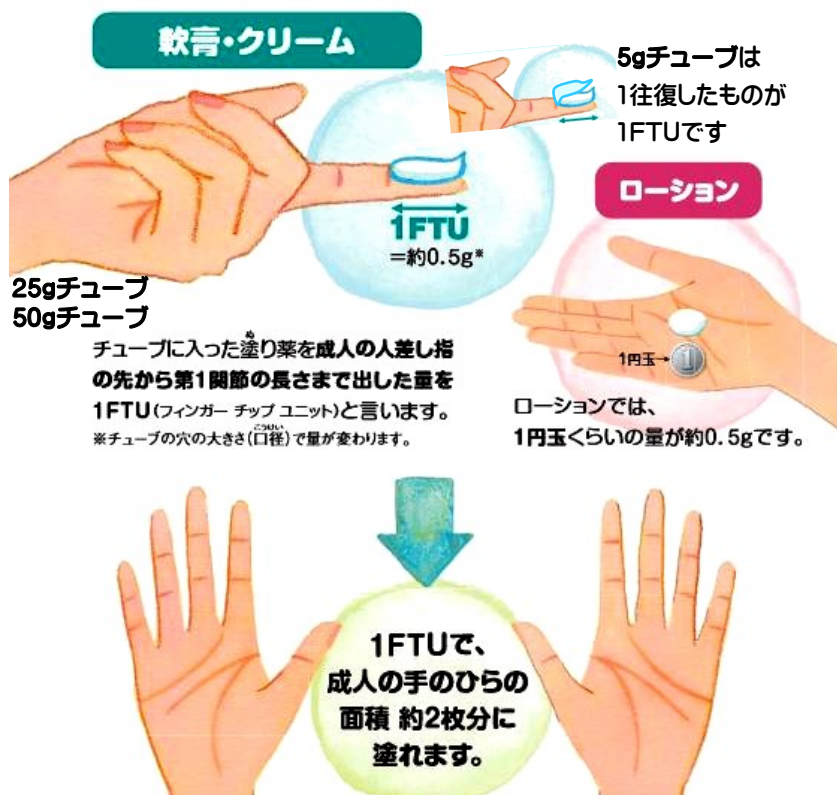
軟膏より吸収がよいので皮膚の深いところに効かせたい(水虫など)時に適しています。刺激があるため、傷やジュクジュクした部位だとしみてしまうので適さない。夏場などは汗で落ちやすい。

● ローション 薬の主成分+水またはアルコールなど

塗るとクリームより水っぽく、即効性があるので、痛み止めやかゆみ止めに使われます。軟膏やクリームの使いにくい頭皮の保湿などに使われます。クリーム剤と同様に刺激があるので傷やジュクジュクにはNG。夏場は落ちやすい。

軟膏やクリームの中でも、水と油の分量が違ったりと細かく分かれていますが、今回は割愛させていただきます。

ご存知ですか? 1FTU(ワンフィンガ-チップ°ユニット)



1FTUとは、保湿剤やステロイド塗り薬の塗布量の一般的な目安です。

大人の人差し指の第一関節の長さに出した量が1FTUです。

アトピー性皮膚炎などにステロイドを使用する場合は、すり込みすぎずに炎症部位を覆うように塗りましょう。

保湿剤の上手な塗り方などのパンフレットがありますので、お声かけください。